

## 教育研究グループ「研究結果」報告書

報告日 平成31年2月15日

グループ名	東村山市立小学校 校長会研究	フリガナ 代表者氏名	サイトウ ケンジ 齋藤 健二
学校名 (代表者)	東村山市立北山小学校	電話番号	042-391-8190
研究テーマ	新学習指導要領全面実施に向けた校長のリーダーシップ		
研究期間	平成30年4月1日 から 平成31年3月31日 まで		
研究結果 の概要  ※詳細は別 紙により 報告	<p><b>1 研究内容</b></p> <p>(1) カリキュラム・マネジメントの実施に向けた校長のリーダーシップ</p> <p>(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた校長のリーダーシップ</p> <p><b>2 研究方法</b></p> <p>カリキュラム・マネジメントの実施と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた校長のリーダーシップについて各学校の研究・実践・取組を通して深める。</p> <p><b>3 第1分科会の研究の概要</b></p> <p>カリキュラム・マネジメントとは、各学校が、学校の教育目標をよりよく達成するために、カリキュラムを創り、実行し、評価・改善する取組である。カリキュラムを主たる手段として、教育目標を達成していくマネジメント手法であり、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質を高めていく手法である。また、その前提として、児童や学校、地域の実態を把握することが必要とされていることから、校外組織との連携も含めた展開を考えていかなければならない。特に学校では、年間を通して複数の行事が行われるため、行事に関わるPDCAを確実にを行い、学校行事をつなげていくことが重要である。一つの学校行事の成果を、次の行事に生かしていくことで、児童に育成する資質・能力の向上が図られる。</p> <p><b>4 第2分科会の研究の概要</b></p> <p>第2分科会では、校長がリーダーシップを発揮してどのように教員に働きかければ、子供たちに求められる資質・能力を育むための学びの在り方を教員自らが考え、子供たち一人一人が、主体的・対話的な問題発見・解決の場面を経験することによって、身に付けた知識や技能を活用し、深い学びへと結び付けていくような授業が実践できるかを研究した。第2分科会では、それぞれの学校の課題に基づいた授業改善の方策について、以下の4つの項目に分けて、それぞれの学校の取り組み方を明らかにし、教員の授業が主体的・対話的で深い学びにつながった実践事例をあげて、さらに研究を深めた。</p> <p>ア 人事考課を活用した授業改善      イ 授業観察を活用した授業改善</p> <p>ウ 校内研究を活用した教員の意識を高める授業改善      エ 研究奨励校を活用した授業改善</p> <p><b>5 成果</b></p> <p>新学習指導要領全面実施に向けた校長のリーダーシップに向けて、カリキュラム・マネジメントの実施と主体的・対話的で深い学びの実現について研究を深めることができた。カリキュラム・マネジメントの実施と主体的・対話的で深い学びの実現に向けて各学校の研究・実践・取組を共有することで課題を整理することができた。</p>		
その他 特記事項	特になし		

平成30年度 東村山市公立小学校長会研究

## 研究主題

# 新学習指導要領全面実施に向けた 校長のリーダーシップ

平成31年2月

東村山市公立小学校長会

### 1 研究主題

「新学習指導要領全面実施に向けた校長のリーダーシップ」

平成29年3月に文部科学省から新学習指導要領が告示された。これを受けて昨年度、小学校長会では新学習指導要領の柱であるカリキュラム・マネジメントと主体的・対話的で深い学び、新しく導入される「特別の教科 道徳」、外国語活動・外国語科についての研究に取り組んだ。その昨年度の小学校長会の研究の成果と課題を踏まえるとともに、新学習指導要領の趣旨を生かした学校経営をするために、今年度はカリキュラム・マネジメントと主体的・対話的で深い学びに視点を当て、校長がどのようにリーダーシップを発揮すれば新学習指導要領の全面実施ができるかの研究をしていく。

新学習指導要領全面実施を迎える平成32年度には、各学校が新学習指導要領の趣旨を生かした学校経営と学習指導ができるようにするために、今年度、東村山市小学校長会では、カリキュラム・マネジメントと主体的・対話的で深い学びについて研究を進める。

### 2 研究内容

- (1)カリキュラム・マネジメントの実施に向けた校長のリーダーシップ
- (2)主体的・対話的で深い学びの実現に向けた校長のリーダーシップ

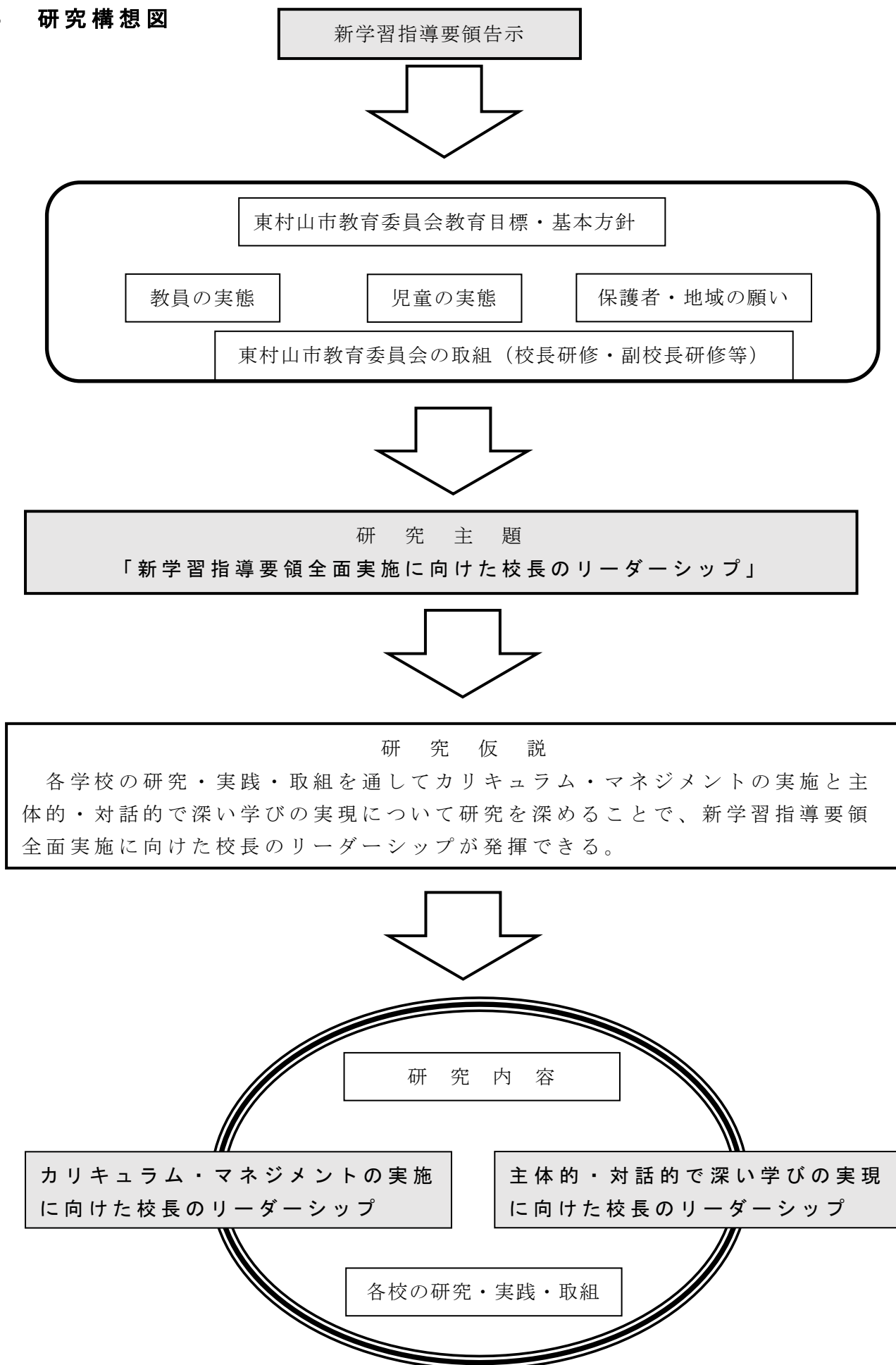
### 3 研究方法

カリキュラム・マネジメントの実施と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた校長のリーダーシップについて、各学校の研究・実践・取組を通して深める。

### 4 研究仮説

各学校の研究・実践・取組を通してカリキュラム・マネジメントの実施と主体的・対話的で深い学びの実現について研究を深めることで、新学習指導要領全面実施に向けた校長のリーダーシップが発揮できる。

## 5 研究構想図



## 6 第1分科会の研究の概要

### カリキュラムマネジメントを実現するための校長のリーダーシップ

#### 学校教育目標

児童の実態や地域の実態から課題を把握し、学校教育目標の重点を設定する。

#### 重点的に育みたい資質・能力

児童の実態から重点的に育みたい資質・能力の実現に向け、学校として具体的な目標を設定する。

#### 目指す児童像

育てたい資質・能力を踏まえ設定する。

#### 育てたい資質・能力を「3つの柱」で整理

知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等の3つの側面で整理し、どの教科等のどの内容から育成をするか、教育課程上の位置付けを検討する。

#### 学校の教育活動の質の向上

- ・ 社会に開かれた教育課程の実現
- ・ 教育の目的や目標の実現
- ・ 教育課程や指導方法の見直しによる効果的な教育活動の充実

教科横断的な視点

教育活動のP D C Aの視点

人的・物的な視点

#### 教科横断的な視点

◎全教職員が学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力について共通理解を図る。

・ 言語能力・問題発見・解決能力・意思決定力・情報活用能力・持続可能な社会をつくる力

#### P D C Aの視点

- ・ 教育課程の編成・教育課程の実施
- ・ 教育課程の評価・教育課程の改善

#### 人的・物的な視点

- ・ 意図的・計画的なかわり
- ・ 教科等とのかわり

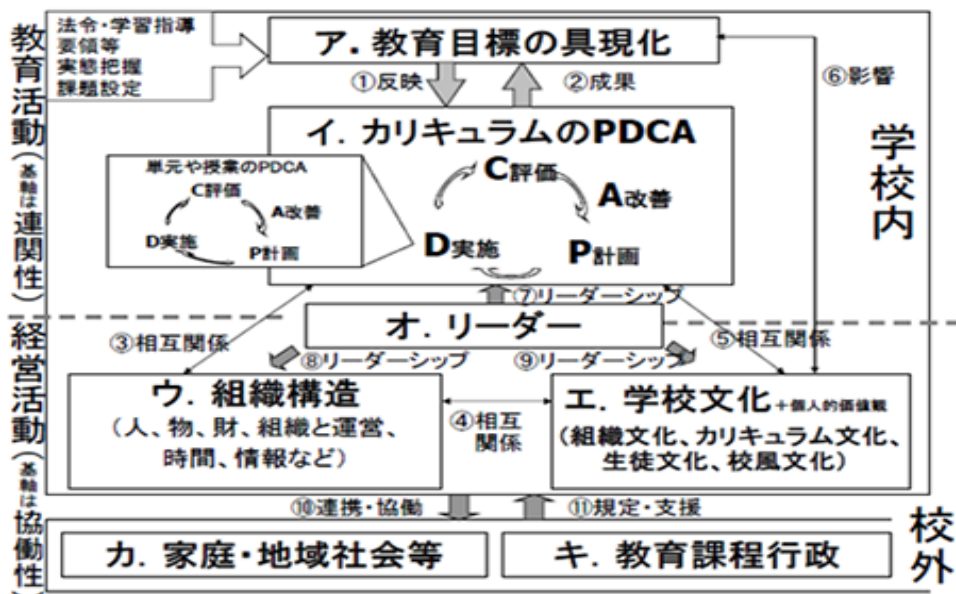
## 学校における効果的な「カリキュラム・マネジメント・モデル」

新学習指導要領では、その理念を実現するため、各学校においてカリキュラム・マネジメントに努めることとされた。（総則第1章第1の4）

カリキュラム・マネジメントとは、各学校が、学校の教育目標をよりよく達成するために、カリキュラムを創り、実行し、評価・改善する取組である。カリキュラムを主たる手段として、教育目標を達成していくマネジメント手法であり、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質を高めていく手法である。

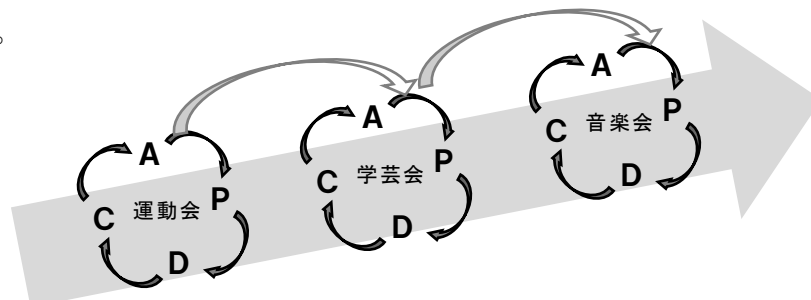
また、その前提として、児童や学校、地域の実態を把握することが必要とされていることから、校外組織との連携も含めた展開を考えていかなければならない。それらを踏まえ、大阪教育大学の田村知子教授により作成されたモデルが、以下の「カリキュラム・マネジメント・モデル」である。

### カリキュラム・マネジメント・モデル



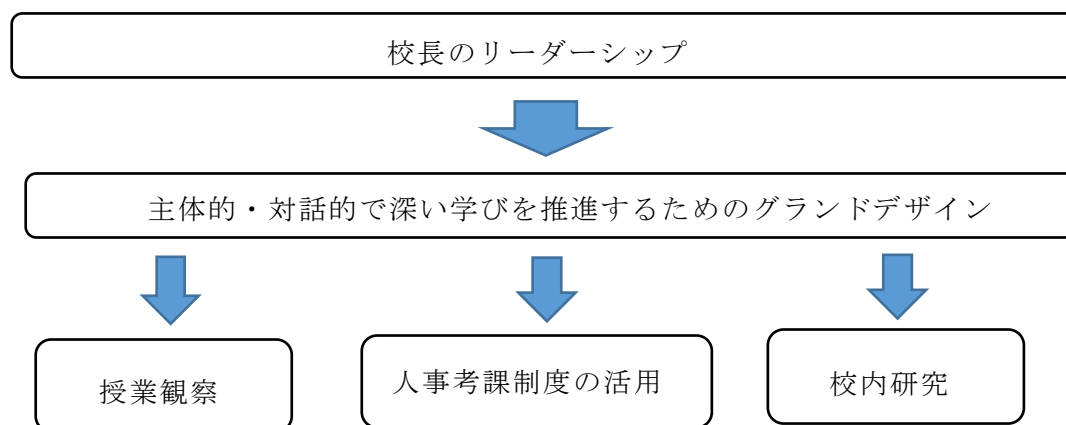
大阪教育大学 田村知子教授 作成（HPより引用）

特に学校では、年間を通して複数の行事が行われるため、行事に関わるPDCAを確実にやり、学校行事をつなげていくことが重要である。一つの学校行事の成果を、次の行事に生かしていくことで、児童に育成する資質・能力の向上が図られる。



## 7 第2分科会の研究の概要

第2分科会では、校長がリーダーシップを発揮してどのように教員に働きかければ、子供たちに求められる資質・能力を育むための学びの在り方を教員自らが考え、子供たち一人一人が、主体的・対話的な問題発見・解決の場面を経験することによって、身に付けた知識や技能を活用し、深い学びへと結び付けていく、そのような授業が実践できるようになるかを研究した。



第2分科会では、それぞれの学校の課題に基づいた授業改善の方策について、以下の4つの項目に分けて、それぞれの学校の取り組み方を明らかにし、教員の授業が主体的・対話的で深い学びにつながった実践事例をあげて、さらに研究を深めた。

- ア 人事考課を活用した授業改善
- イ 授業観察を活用した授業改善
- ウ 校内研究を活用した教員の意識を高める授業改善
- エ 研究奨励校を活用した授業改善

## 8 成果と課題

(成果1) 新学習指導要領全面実施に向けた校長のリーダーシップに向けて、カリキュラム・マネジメントの実施と主体的・対話的で深い学びの実現について研究を深めることができた。

(成果2) カリキュラム・マネジメントの実施と主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、各学校の研究・実践・取組を共有することで課題を整理することができた。

(課題1) 新学習指導要領全面実施に向けた校長のリーダーシップに向けて、カリキュラム・マネジメントの実施と主体的・対話的で深い学びの実現について研究を深めること。

(課題2) カリキュラム・マネジメントの実施と主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、引き続き各学校の研究・実践・取組を継続していくこと。